

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南小泉児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和3年度 16,759人（前年度比 110.2%） ・令和2年度 15,204人 ・令和元年度 27,861人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 33,491千円 (34,573千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>区を中心に位置し、公共施設等が集まる立地条件の良さを活かし、各種関係機関と連携協力し各事業に取り組むことができました。特に、利用者が共通する「のびすく若林」との共催行事「遊びのひろば」では、市民センター大ホールを会場に多くの乳幼児親子が楽しく交流する姿が見られました。ハロウィン行事では、館外にも活動の場を広げ、若林区文化センター・若林区中央市民センター・若林図書館など近隣の施設の協力を得て開催することができました。社会福祉協議会若林区事務所の協力による「車いす体験」は、バリアフリーやユニバーサルデザインを理解する上での貴重な体験の場となりました。</p> <p>地域交流推進事業では、「花いっぱいプロジェクト」を新たに始めました。児童館の周りをプランターの花で飾ると共に、各施設に花鉢を届けるなど地域の皆様に大変喜んでいただきました。保春院での「座禅」では、地域の歴史を学ぶことができ、夏の恒例行事として定着させていく予定です。</p> <p>子育て家庭支援事業では、「赤ちゃんサロン0」「なかよしひろば」「チョキベタひろば」などに対する期待が高く、コロナ感染拡大による事業休止が解除されると同時に多くの方々が来館されました。新たな試みで始めた「サタデーひろば」は、平日の利用が難しい乳幼児親子の利用促進につながりました。「冬のお楽しみ会」は、コロナ禍による人数制限があったにもかかわらず、区内全域から参加者が訪れるほどの人気行事でした。</p> <p>児童健全育成事業では、「ポッチャ大会」を開催したところ、パラリンピックの効果もあり、興味関心を持って楽しく参加する姿が見られました。「川に学ぼう」では、子どもたちが広瀬川に棲息する生き物に直接接触れることを通して環境問題を考えるきっかけを持つことができました。今後も子どもたちの豊かな育ちを支え、地域と共に歩む活力ある児童館を目指して取り組んでまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、「子どもあそび委員会」を定期的に開始し生活や遊びのルールなどについて、自分達で課題解決できるような支援や、遊戯室での遊びや子ども自身が児童館での過ごし方を決めたり、その日のリーダーを立候補で決めたりするなど、日々の遊びや生活を通して自主性や社会性を育てている。</p> <p>地域交流推進事業・児童健全育成事業においては、「クイズ王決定戦」や職員が工夫を凝らした内容の「若チュウタイム」を開催している。また、外部講師を招いて多彩な体験活動を企画したり座禅体験やハロウィンなど地域の方と交流を深めると共に、子どもの興味関心を広げながら豊かな感性を育てている。</p> <p>子育て家庭支援事業において様々な企画のもとで開催される「ひろば」は、乳幼児親子の保護者のニーズも高く、定期開催をして遊びや交流の場を提供している。また、市民センターの協力を得てのびすく若林と共催で行った「遊びのひろば」、社会福祉協議会の協力を得て開催した「冬のお楽しみ会」、地域のボランティアの協力を得ながら実施した「おはなしひろば」「布のおもちゃであそぼう」など、地域の資源を活用しながら多彩なプログラムも提供して子育てを支援しており、地域の子育て支援の拠点としての役割を十分果たしている。立地条件の良さを生かして、各事業において市民センターやのびすく若林を始めとした関係機関と積極的に連携を図り、協力体制のもと事業を展開しており、子どもが地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課